

民意を反映する選挙制度実現
比例定数削減反対！ **運動情報**

憲法会議 発行

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

【憲法しんぶん速報版】

2012年2月17日

第330号 Tel 03-3261-9007
本号6号 Fax 03-3261-5453

衆議院選挙制度に関する各党協議会

樽床座長とりまとめ私案は「比例80削減」

これまでの議論の中心点- 現行制度抜本改革- を棚上げ

2月15日、16日と連日開かれた衆議院選挙制度に関する各党協議会第12回、13回協議会の模様を詳しく伝えます。

2月15日 衆議院選挙制度に関する各党協議会（12回）

「座長私案」に「比例定数80削減」を明記、各党から批判あいつく

衆議院選挙制度に関する各党協議会（第12回）が2月15日国会内で開かれました。

冒頭、座長の樽床伸二氏（民主党幹事長代行）は「比例定数80削減」等を柱とする「座長とりまとめ私案」を提示し説明しました。自民党は「前進」と評価したが、他の党からは「この間の議論が反映されていない」「唐突だ」「違和感を覚える」など批判的な意見が相次ぎました。明16日に協議会を開き、引き続き協議することになりました。

「座長とりまとめ私案」（2012年2月15日）は、以下のとおりです（全文）。

1. 次期総選挙に限った緊急措置

1) 一票の較差是正

昨年3月の最高裁判決を受け、衆議院の各小選挙区間の較差を緊急に是正するため、一人別枠方式を廃止し、各都道府県の小選挙区数を「0増5減」する措置を講じる。

2) 定数削減

政治家が自ら身を切る姿勢を率先して示すため、衆議院の比例定数を80削減する。

3) 選挙制度

本格的な制度改革を行うまでの緊急措置として、現行の並立制をベースに、比例定数の削減に伴い民意が過度に集約されることを補正するための措置を講ずる。（具体的には、一部を連用制とするなどの意見もある。）

2. 本格的な選挙制度改革

次々回の総選挙から実施できるよう、次期総選挙後、第9次選挙制度審議会を設置し、参院選挙制度改革を踏まえつつ、新たな中選挙区制（連記制を含む）など、有権者の政権選択と一定の民意反映を両立させる選挙制度のあり方について検討を行い、1年以内に結論を得る。

樽床氏は、「座長とりまとめ私案」を提示し、「座長として出したもので、民主党の案ではない」と前置きし、内容を説明したうえで「この案が十分なものでないのは認識しているが、意見をいただき、この協議会は与野党幹事長書記局長会談の下に置かれており、来週の早い段階で幹事長会談に報告したい。」と述べました。「(3)は、比例 80 削減すると過度に集約されることになる。みなさんの理解を得て補正の方法を考えたい」とのべる一方、抜本改革については「純粋な連用制では第一党の比例議席獲得がゼロになる、中選挙区制は、時間的なことがどうしても払拭できない」などと先送りを弁明しました。また「過度な集約を補正するための措置」について「座長としての案は特にもっていない」と述べました。

＜「私案」に対する主な意見（要旨）＞

○細田博之氏（自民党）…これまでの単純な比例 80 削減からいうと大きな前進だ。他方、最高裁の違憲判決から 10 か月を渡過し、しかも区割審の法的な勧告期限が来週すぎてしまう。私は、民主の考えを多とし、できるだけ速やかに成案を得るのがわれわれの責務だ。まず第一の「0 増 5 減案」は早く通すべきだ。法案を通したあと、区割審の作業をうけ、2 本目の公選法改正がある。そのときに全体の改正機会があるのだから。民主は、単純な比例 80 削減ではないということの文書でもつくって、小選挙区の是正案を早く通過させるべきだ。カッコに書かれていることがどういう案か、私が提案した第二比例枠なのかよくわからないが、定数削減幅も 80 か 50 かなどをつめて歩みよれる余地はある。

○東順二氏（公明党）…政党のしほりからはなれて、11 回の協議をふまえてとりまとめたといわれたが。2 番目に「比例定数 80 削減する」といきなり、民主党の案をだしてくる。定数削減の数など一度も議論していない。制度改革の中で定数削減もということで議論してきた。ところがいきなり 80 削減をだしている、大変危ないことになる。読売新聞のシミュレーションでは、比例 80 削減で並立制のまま、第 3 党以下の議席は、現行の 53 から 31 と 22 議席も圧縮されている。民主主義への逆行だ。(3) のカッコの中で、「一部を連用制とする意見もある」と書いている、意見もあると大変引けた言い方で、座長としての主張がない。どういうことか。

○斉藤鉄夫氏（公明党）…「過度に集約されることを補正する」という点は重要だと思うが、この文章は「現行の並立制をベースに」といっている。われわれがいう連用制は、並立制をベースとしていない。小選挙区と比例代表の融合した新しい案だ。

○下地幹郎氏（国民新党）…民主党の樽床氏だから座長をやっているのであり、座長と民主がちがうというのはおかしい。民主党として話をすべきだ。

○中西健治氏（みんなの党）…これまで「1 人 1 票」比例代表制をいつてきた立場からいって、私案は相いれるものではない。定数削減を比例でやるべきでない。小選挙区こそ大幅にへらすべきだ。(3) の「補正」などは複雑すぎて国民の理解はむずかしい。いろいろなものを併存させるべきでない。

○穀田恵二氏（日本共産党）…「座長とりまとめ私案」は、この間の 11 回に及ぶ議論を全く踏まえていない。「とりまとめ」というなら、現行の小選挙区比例代表並立制という選挙制度は、民意を大きくゆがめているから抜本改革が必要だという多くの党の意見に、なぜふれないのか。しかも比例定数 80 削減は、民主党以外のすべての党が反対していることを全く無視している。「身を切る姿勢を率先して示すため」というのは、消費税増税の一体改革素案でいっていることで、まったく筋違いの議論だ。並立制をベースにし、比例削減すれば、いま小選挙区中心で民意がゆがめられているものが、さらにゆがむ、現行制度が民意をゆがめていることが問題だというのがこれまでの議論の共通認識だ。座長としてのとりまとめとは、おおよそ言えない。

○樽床座長…現行制度が「ゆがんでいる」とは思っていない。制度の特長だ。私個人的には、二院制のなかで吸収できるのではないかと思う。

○細田（自民）…小選挙区並立制のもとでは、世論が大きくふれるが、政権交代可能な制度といい、実際に政権交代がおきた。いまの並立制のもとで、比例を 80 単純に減らすのはさらに 2 大政党にあまりに多数議席を与えることになり、それは民主主義に逆行しているといっただのであって、限定的に言っている。

○中島隆利氏（社民党）…比例 80 削減は、民主党だけの意見であり、多くの党が反対し、一度も議論していない。消費税のための議論だ。座長としてというならこの議論を踏まえるべきだ。比例 80 削減は、絶対反対だ。選挙制度で連用制に言及しているが、「現行の並立制をベース」にしたのでは改革にならない、民意の反映に逆行する。支持できない。抜本改革を次々回の総選挙から実施できるよう 9 次選挙審と先送りしているが、最後まで抜本改革やる姿勢でいくべきだ。

○斉藤恭紀氏（新党きづな／今回から参加）…比例 80 削減は、2 年前のマニフェストで掲げたものだが、今、必要かどうか。少数や地方の声が聞こえなくなるという意見もある。80 削減分に見合うコストを国会経費から削減すればよい。

○園田博之氏（たちあがれ日本）…定数削減は、選挙制度改革といっしょでないと無理だ。抜本改革の議論をやるべきだ。

○松本兼公氏（新党大地・真民主／今回から参加）…小選挙区を 100 減らすべきだ。

○新井広幸氏（新党改革）…2 番目に抜本改革がきているが、最初に抜本改革をもってきて、もう時間がないから、とりあえず「0 増 5 減」というのかと思っていた。ところが、比例 80 削減がぼこんときている、大変遺憾であり問題だ。

○樽床座長…明 16 日 13:00 から続きの議論をお願いしたい。

【論評】《「座長私案」、議論に逆行し、なぜ抜本改革を棚上げするのか》

樽床氏が示した「座長とりまとめ私案」は、座長としての「とりまとめ」の形をとりながら、民主党の主張する「比例定数 80 削減」をストレートにもちこんだものである。しかも「政治家が自ら身を切る姿勢を率先して示すため」と書きこみ、民主党の「一体改革素案」とまったく同じ理屈づけをしている。民意を反映するための議席の削減を、国民に消費税増税を押し付ける“地ならし”とすること自体が筋違いだ。すべての党が「民主主義破壊の暴挙」と批判してきた「比例 80 削減」を「とりまとめ」にもりこむ姿勢そのものが問われなければならない。

この間、各党協議会で多くの党が議論してきたのは、4 割の得票で 7 割の議席を占め、民意をゆがめる現行小選挙区並立制そのものであり、抜本改革の必要性だ。小選挙区中心の現行制度に問題があることは、民主党以外の各党の共通した認識である。世論調査でも 7、8 割の人が抜本改革を求めている。にもかかわらず、座長私案は、民意をゆがめる「現行の並立制」を前提にして、「比例削減に伴い民意が過度に集約されることを補正する」などという。いま民意をゆがめていることが問題になっているのに、さらに比例削減で民意をゆがめるといのは、議論の経緯に逆行するものである。

また、現行制度で小選挙区の区割審が、10 年毎の国勢調査結果をふまえ 1 年以内に新たな区割案の勧告をおこなうと規定していることから、国調速報値発表から 1 年の 2 月 25 日を期限として“決着”を急ぐ動きがあるが、いま議論しなければならないのは、現行制度の抜本改革である。座長私案は、小選挙区間の格差是正「0 増 5 減」を緊急措置と位置づけ、「抜本改革」は「次期総選挙後、9 次選挙制度審議会を設置し検討する」としているが、小選挙区間の格差是正の区割を先行させる議論は、結局、小選挙区制を維持・固定化し、抜本改革の議論を棚上げしてしまうものにほかならない。（日本共産党国会議員団事務局白髭寿一）

来週早々に与野党幹事長書記局長会談、いったん議論の内容を報告する

衆議院の選挙制度に関する各党協議会（第13回）が2月16日、国会内で開かれ、「座長とりまとめ私案」について、前日の議論をひきついで協議しました。各党からは批判が続きましたが、自民党が「私案は、単純な比例80削減ではないのは前進」と評価し、「さらに削減数や補正をどうするか議論に進むべきだ」と提起。これをうけ、樽床伸二座長（民主党幹事長代行）は、来週早々に与野党幹事長書記局長会談を開いて、いったん協議の状況を報告したうえで進めるとまとめました。

<主な発言・要旨>

○細田博之（自民）…私案にかかっていることは、単純な比例80削減ではない。さらに、どういう制度にするのか、定数削減幅をどうするか、過度な集中の補正をどうするか議論に入るべきではないか。

○園田博之（たち日）…正直言って、民主は本気で定数削減と抜本改革をやる気があるのか。抜本改革と定数削減はいっしょでないとできない。抜本は次の次ではなく、ひきつづいて議論してはどうか。

○穀田恵二（共産）…11回目の最後に樽床座長は、頭を整理して次回といったが、とりまとめとは言わなかった。各党の議論の経過からすれば、一番の問題は、現行制度の問題、民意をゆがめているから、現行制度の抜本改革が大事だということで一致している。私案は、現行制度を維持固定化し、抜本改革を棚上げしようとするものだ。

○樽床座長（民主）…認識のちがいだ。私は、現行制度がゆがめているとは思っていない。過度にぶれることは認めるが、何がゆがみか、民意の反映と集約は、どういう価値観をもつかでいろいろちがう。「ゆがんでいる」とは言っていない。

○穀田（共産）…民主党をのぞいて、得票率と議席率に乖離があることの認識は共通している。

○細田（自民）…置かれている状況は、最高裁から憲法違反といわれ是正しないといけない。区割まできめなければ、2倍を消すことはできない。それを解決するのが大きな役割だ。ところが、格差是正は必要だ、しかし、次に、民主党が絶対多数で80削減をしてくるのではないかとということで協議がすまない。絶対すべきではない、強引にやることは反対だといってきた。それを乗り越える議論をして、当面、どうやっていくのかという2点にしぼって結論をださなければならない。

○樽床座長…私は座長だが、民主党議員という制約がある。一票の較差是正と比例80削減やらなければならない、これをいっているのは民主党だけ。国会で実現するうえで全党が反対されたら実現できない。その現実にかんがみ、「何らかの補正」が実現できないか模索していきたい。「0増5減」も緊急の措置であり、中選挙区制、連用制もふくめて抜本改革をするわけだから。

○園田（たち日）…その認識がちがう。

○中島隆利（社民）…各党の議論は、定数削減の問題は抜本改革の中で検討すべき問題だといってきた。わが党は、民主党のいう比例削減には反対する。座長は、当初の2段階を撤回して、較差是正・定数削減・抜本改革の3つを一体で議論するとしてきた。時間がないということで、是正だけ先行して、比例削減というのではなく、抜本改革を期限きってでもやるべきだ。

○田野瀬良太郎（自民）…具体的に、数字もだして議論していくべきだ。80削減で並立だ

とそれぞれの議席の減少率がどうなるのかとか。

○樽床座長…前回選挙をもとに試算したものでいうと、比例 80 減らすと、各党の比例議席の減少数は、民主▲34/87、自民▲25/55、公明▲11/21、みんな▲1/3、共産▲5/9、社民▲4/4 となる。

○穀田（共産）…得票率と議席率でみるべきだ。第 3 党の公明党以下で 30%の得票率があるのに議席率は 8%しかないことが問題だ。比例の議席しかみていない議論だ。細田氏は、2 月 25 日を強調するが、それは小選挙区制維持の立場であり、抜本改革のなかで較差是正も考えるべきだ。比例 80 削減はみな反対だ。

○細田（自民）…共産党とは意見ちがうが、他の党は定数削減をいっている。比例で削減するしかない。それが 30なのか 50なのか、私は一割、50 ぐらいが相場かなと思うが、50 減らすとなると、第 3 党以下の党は大打撃をうけるので、その救済方法がないか、そこで第 3 党以下の配分枠として 30 の枠をもうけることを提案している。メインの比例枠は従来どおりドントで議席を配分する。第 3 党以下を不当に圧迫するものとならない。そういう知恵をださないと、対立だけして前にすすまない。樽床座長の私案は、そこに知恵をとという匂いがする。

○中島（社民）…定数削減は、抜本改革で制度を変えられる中でなら賛成するが、今回の座長私案には反対だ。小選挙区だけ是正して並立を続け、次に比例削減をやる、それはだめだ。

○園田（たち日）…急いで定数削減やろうとするから比例しかないとなる。私は、今国会中、選挙制度の改革にむけた議論を集中することが大事だと思う。次の選挙に間に合えないと決めてかかるべきでない。

○荒井（改革）…抜本改革なしに定数の大幅削減はできない。小選挙区制のもつ弊害、議席の乖離だけでなく、政治の劣化という面からも、抜本改革が必要だから協議して決めるべきだといっている。そこで比例削減をすれば固定化してしまう。比例削減を前提とする考えはでてくるはずのないものだ。抜本改革の議論を集中してやるべきだ。

○中西（みんな）…定数削減は国民が求めている。しかし、比例からの削減が前提になっているのはちがうのではないか。比例 80 削減は反対です。

○斉藤（公明）…定数削減はやらなければならないが、定数を減らすと民意の吸収が減ることになる。定数を減らすなら民意をより正確に反映する制度のもとでなければ、政治の自殺行為になる。現行制度のもとでの得票率と議席率の乖離が問題だ。民主は 40%の得票で約 60%の議席をしめている。自民は 30%台で 30%。公明は 11.5%で 4%となっている。それ以下になるほど乖離は広がり、社民は 5%で 1%だ。この乖離を狭める改正でなければならない。

○田野瀬（自民）…座長が数字をだして、ここから先、案をださないとすすまない。

○下地（国民）…80 削減で残りの 100 すべて連用なら問題ない。

○樽床座長…私案のペーパーをだした。一步前進であるといってもらった党もあるが、この絵そのものがダメということでは、それ以上の具体案はだせない。

○東（公明）…制度の補正というが、どういう案を考えているのか、それをみないと、一歩とか判定のしようがない。制度はいまの並立制のままで比例 80 削減というのは疑問だ。定数削減やる、しかし民意を圧縮することはしない、そこを合意できないとワングレードあげられない。

○斉藤（公明）…比例 80 削減固定ではのめない。

○細田（自民）…国会できめる制度であり、マニフェストにかいて政権とったからやらしてもらいますというものではない。これは議会制度の話であり、高速道路や子ども手当などとは性格が異なる。80 削減は議会で合意得られなければならないことだ。各党が共通の責任において結論をだしていく問題だ。

○東（公明）…ようするに、①定数削減はやる、②民意を圧縮する制度を補正する、具体案はこれで考えるということか。

○樽床座長…わが党からすると、それは、私の範囲を超えている。常任幹事会での決定を覆す権限はない。ここは、いっぺん、各党の幹事長会談に報告して、現時点での報告をやらないと、私の権限で80削減を下してもよいとはいえない。来週早々にも与野党幹事長書記局長会談をよびかけてもらって、私のほうから報告させていただきたい。

○中島（社民）…その報告には、ここでの議論を反映するようにしてもらいたい。

○穀田（共産）…定数削減OKとはいえない。この間、未定稿として、3つの項目で各党の主張の一覧を座長がつくっているが、そこに、現行制度の問題点の項目を設け、各党の主張がわかるようにすべきだ。

○座長…各党の主張あれば付け加えるようにしたい。□